

令和6年度 栃木県こどもモニター
第1回アンケート結果
(中学生)

調査実施の概要

1. 栃木県こどもモニターってなに

栃木県は、こどもに関する施策を考えて実現するため、こどもや若者、保護者の意見やアイデアを継続的に集め、政策に取り入れることを目的として「栃木県こどもモニター」を募集します。

モニターのみなさんには、栃木県についてのアンケートから意見を収集し、これからの栃木県の施策やルール作りにつなげていきます。

もっと暮らしやすい栃木県になるように、いっしょに考えよう！

2. 第1回アンケート期間

令和6年7月9日（火曜日）から8月5日（月曜日）

3. アンケート方法

アンケート対象者にメールで回答 URL を送付、WEB サイトを通じてアンケートに回答。

4. モニター数

163名

5. 第1回アンケート回答者数

145名

6. 第1回アンケート回答率

88.4%

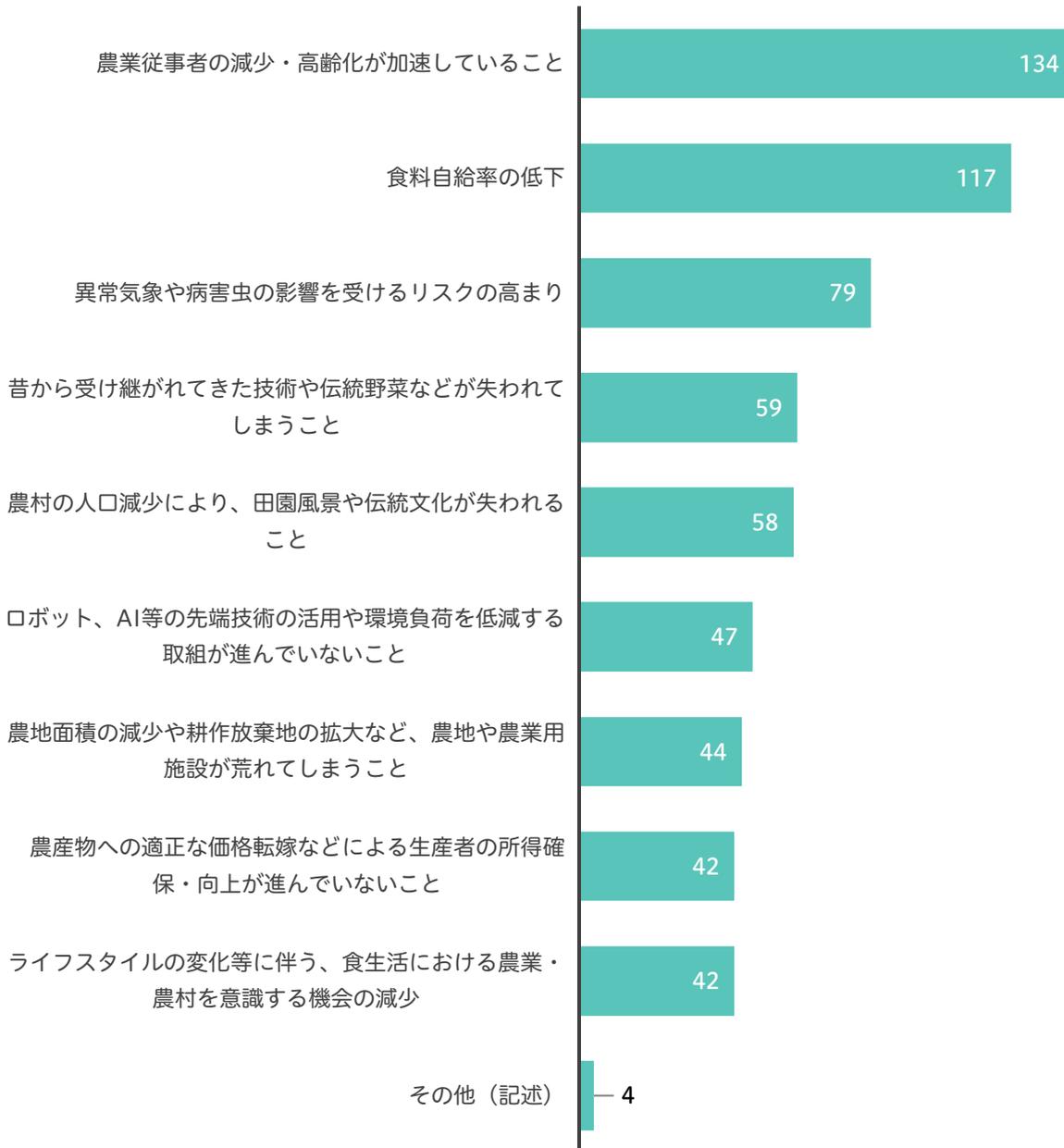
※「その他」を選択した場合の自由記述欄は原文のまま掲載しています。

性別	アンケート 対象者	回答人数	構成比	回答率
男の子	74	68	46.9%	91.9%
女の子	89	77	53.1%	86.5%
その他	0	0	0%	0%
合計	163	145	-	89.0%

学年	アンケート 対象者	回答人数	構成比	回答率
中学1年生	69	63	43.4%	91.3%
中学2年生	59	53	36.6%	89.8%
中学3年生	35	29	20.0%	82.9%
合計	163	145	-	89.0%

※ 集計結果は百分率(%)で示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出したものになります。
そのため、合計が100.0%にならないものがあります。

Q1.「いまの農業を取りまく課題」のなかで、知っているものは次のうちどれですか。【いくつでも選んでください】



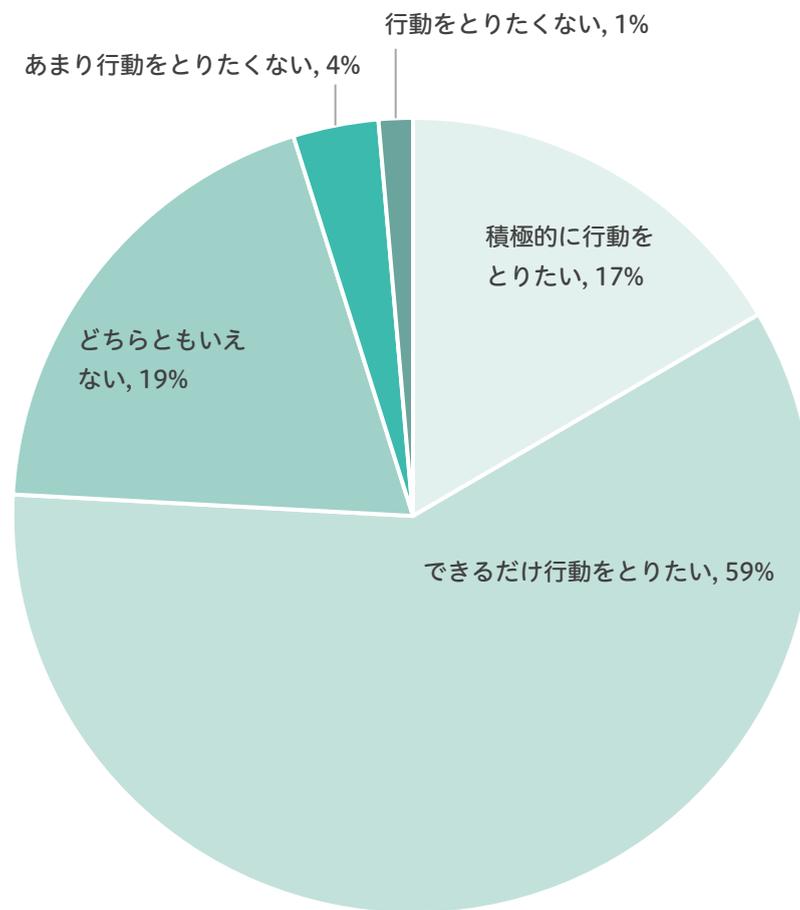
【調査結果の概要】

「農業従事者の減少・高齢化が加速していること」(134件)が最も多く、以下、「食料自給率の低下」(117件)、「異常気象や病害虫の影響を受けるリスクの高まり」(79件)などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 猿や猪などの野生動物が、人のいる村や街に降りて来てしまうこと
- ・ 知らない
- ・ 日本の作物の種が減少していくこと。
- ・ 暑さにより、作物が十分に育たない事。など

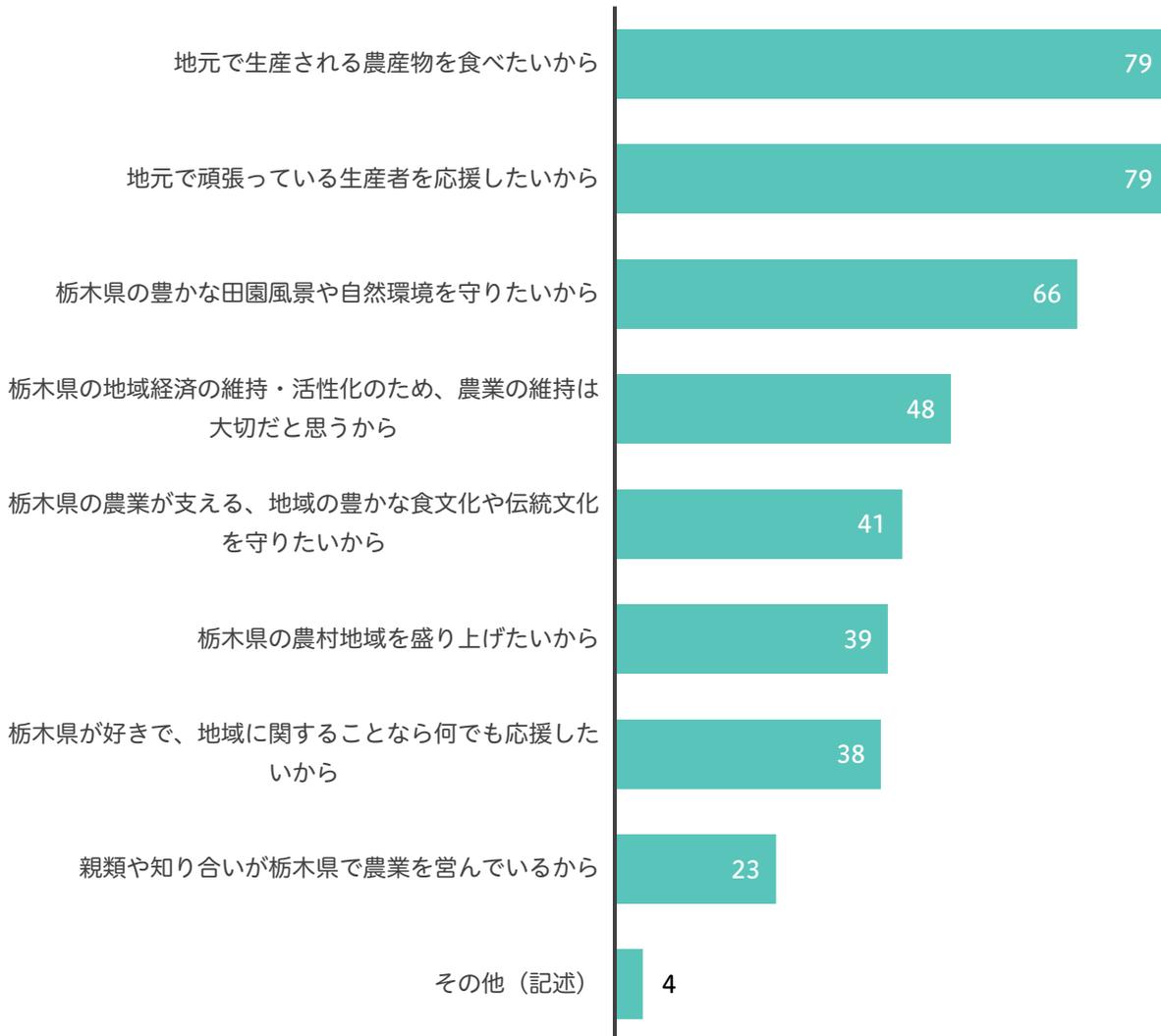
Q2.あなたは「自分も栃木県の農業を応援する行動をとりたい」と思いますか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「できるだけ行動をとりたい」(59%)が最も多く、以下、「どちらともいえない」(19%)、「積極的に行動をとりたい」(17%)などと続いている。行動をとりたいと考えているひとは、78%だった。

**Q3. 「Q2」で「積極的に行動をとりたい」「できるだけ行動をとりたい」を選んだ方にお聞きします。そう思った理由を教えてください。
【いくつでも選んでください】**



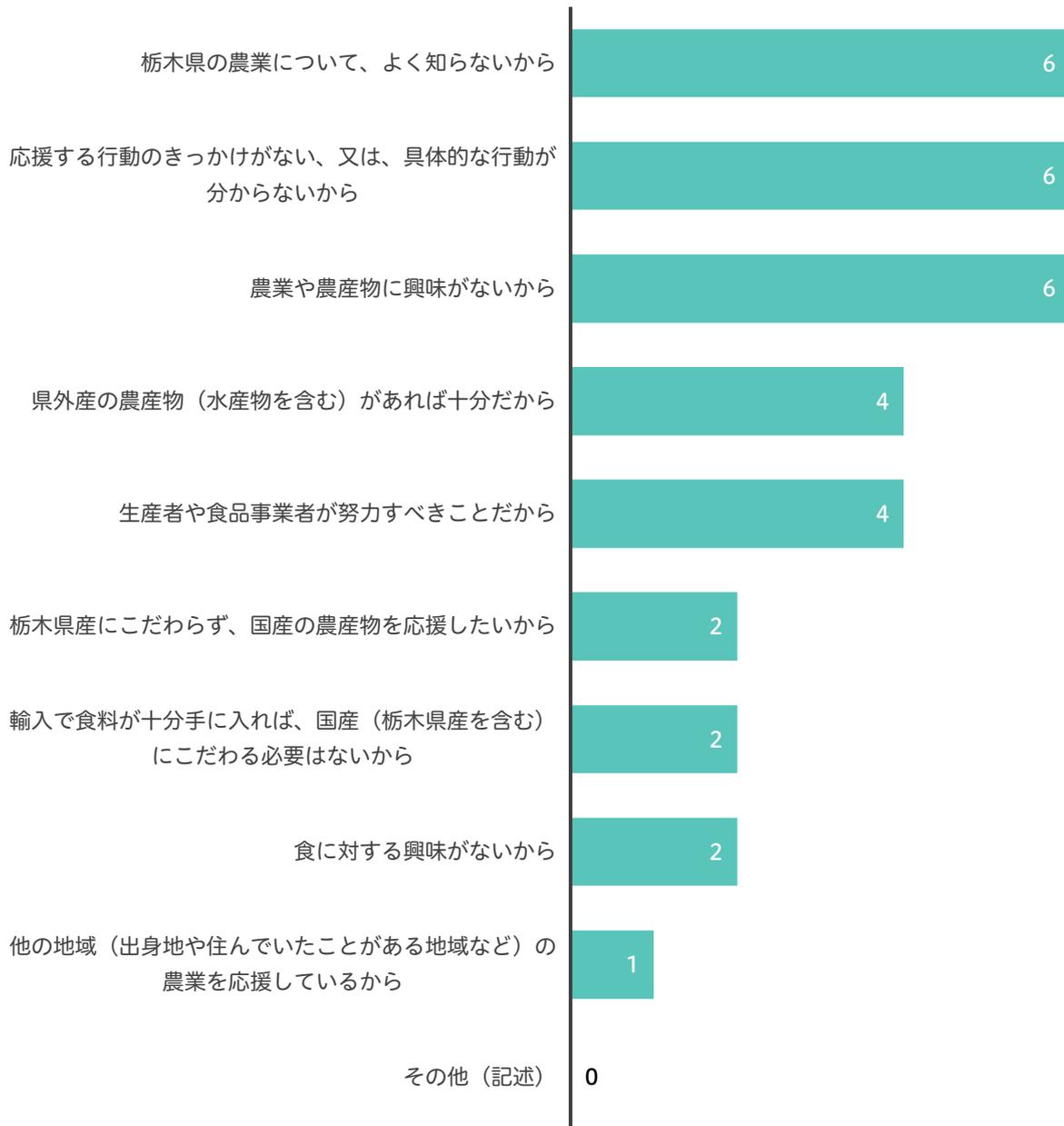
【調査結果の概要】

「地元で生産される農産物を食べたいから」（79件）、「地元で頑張っている生産者を応援したいから」（79件）が最も多く、以下、「栃木県の豊かな田園風景や自然環境を守りたいから」（66件）と続いている。

【その他の自由記述】

- ・ AI を使用しての養殖や生育管理などに興味はあるから美味しいいちごや牛乳が好きだから、いつまでも美味しく食べたいです。そのためなら、やっても良いと思う。
- ・ 地球環境を守りたいから。
- ・ 美味しい物が食べたい
- ・ いちご狩りをした時農家さんの対応に感動した。自分の家で育てたトマトが美味しかった。→ 県民にもその感動を伝えてあげたい。
- ・ やってみたいのと色々な知識が増えると思うから

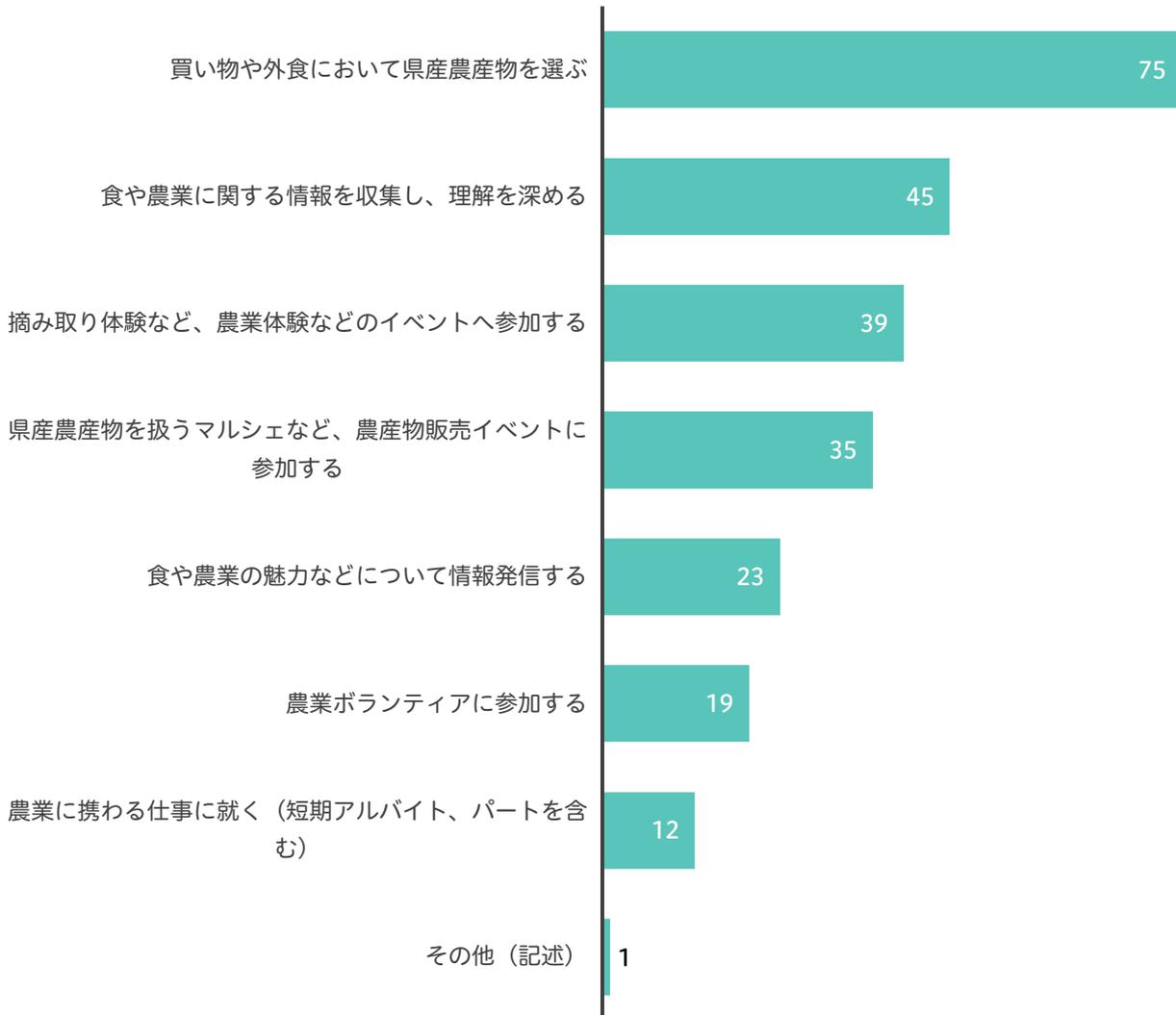
Q4.「Q2」で「あまり行動をとりたくない」「行動をとりたくない」を選んだ方にお聞きします。そう思った理由を教えてください。【いくつでも選んでください】



【調査結果の概要】

「栃木県の農業について、よく知らないから」（6件）、「応援する行動のきっかけがない、又は、具体的な行動が分からないから」（6件）、「農業や農産物に興味がないから」（6件）が最も多い。

Q5. 「Q2」で「積極的に行動をとりたい」「できるだけ行動をとりたい」を選んだ方にお聞きします。こういった行動で応援したいと考えていますか。【3つまで選んでください】



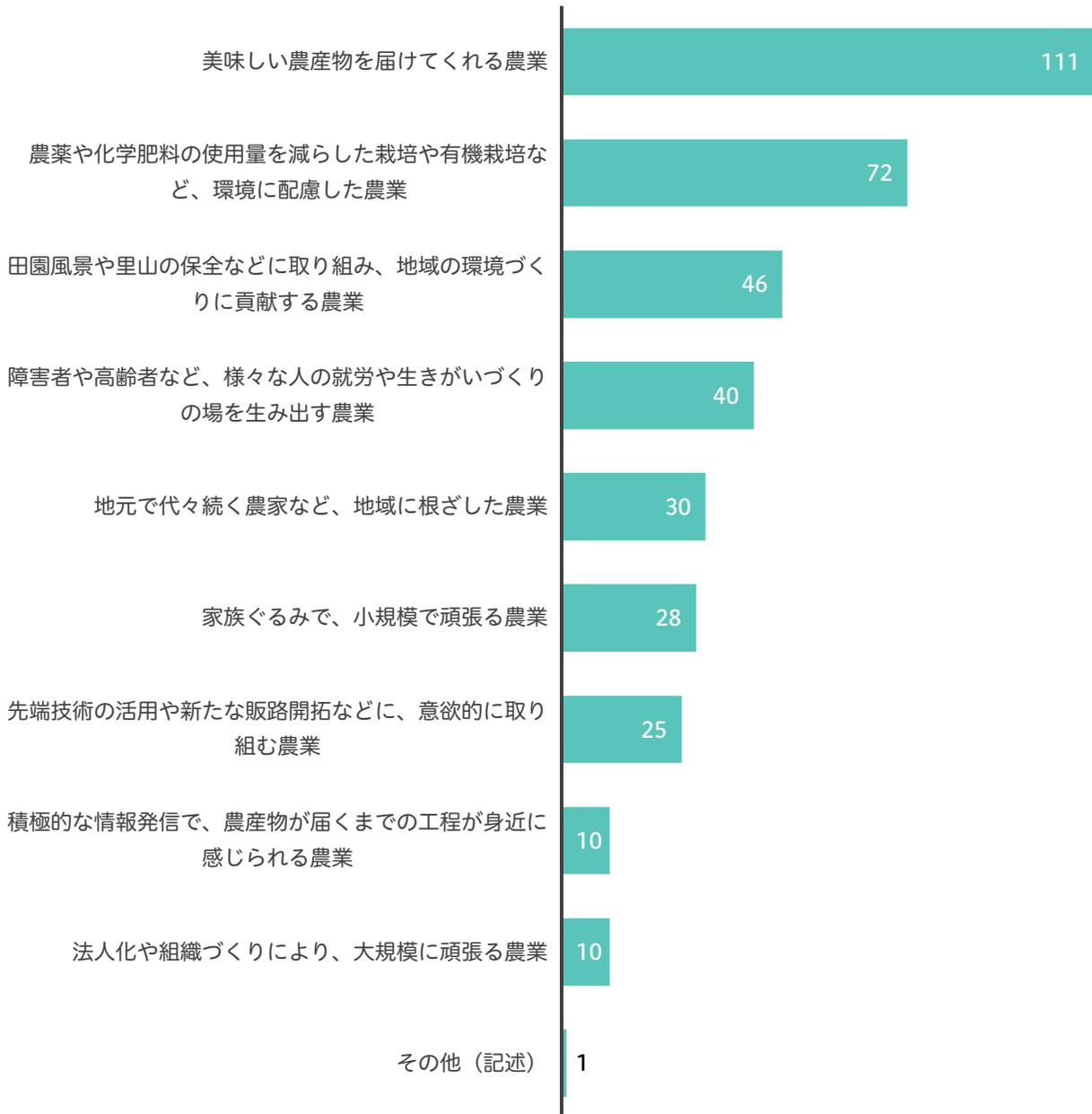
【調査結果の概要】

「買い物や外食において県産農産物を選ぶ」（75件）が最も多く、以下、「食や農業に関する情報を収集し、理解を深める」（45件）、「摘み取り体験など、農業体験などのイベントへ参加する」（39件）などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 荒らされた農作物の土地などを、あるテレビ番組にし、視聴率もとりながらその土地を綺麗にしていく。→そこで育てた農作物を給食や定食屋などに寄付する。
- ・ 食に関する興味深い情報を給食などの時間に紹介し、子供に農業について少しでも広める活動

Q6.あなたが応援したいと思う農業は、どんな農業ですか。【3つまで選んでください】



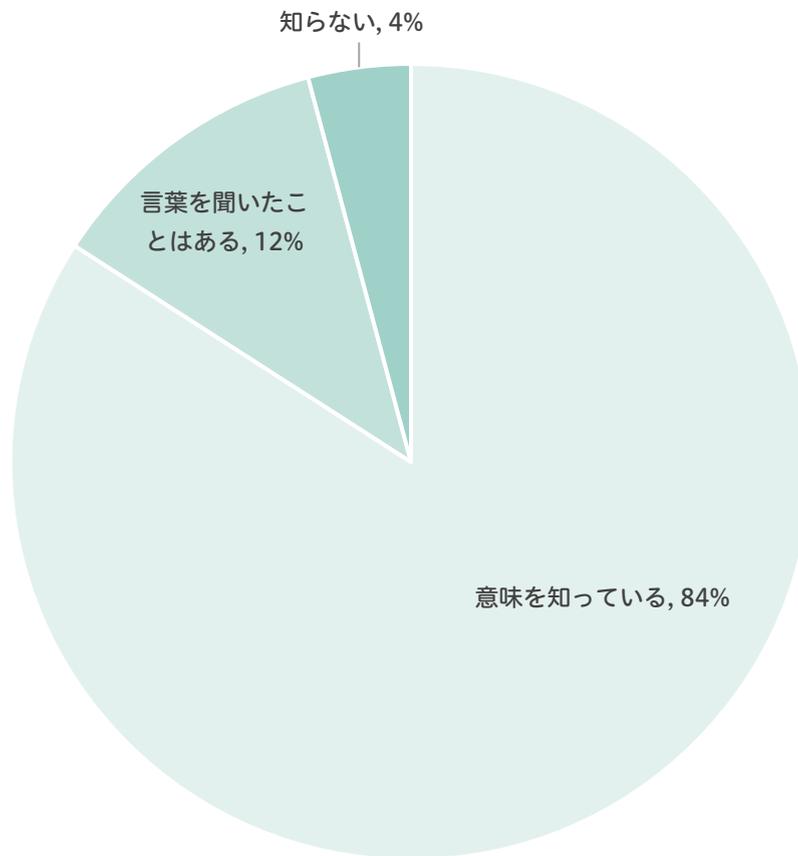
【調査結果の概要】

「美味しい農産物を届けてくれる農業」（111件）が最も多く、以下、「農薬や化学肥料の使用量を減らした栽培や有機栽培など、環境に配慮した農業」（72件）、「田園風景や里山の保全などに取り組み、地域の環境づくりに貢献する農業」（46件）などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 農作物を作ってくださる農家の方達に感謝として、欲しいもの（農家に関係のあるもの）を贈呈する。など

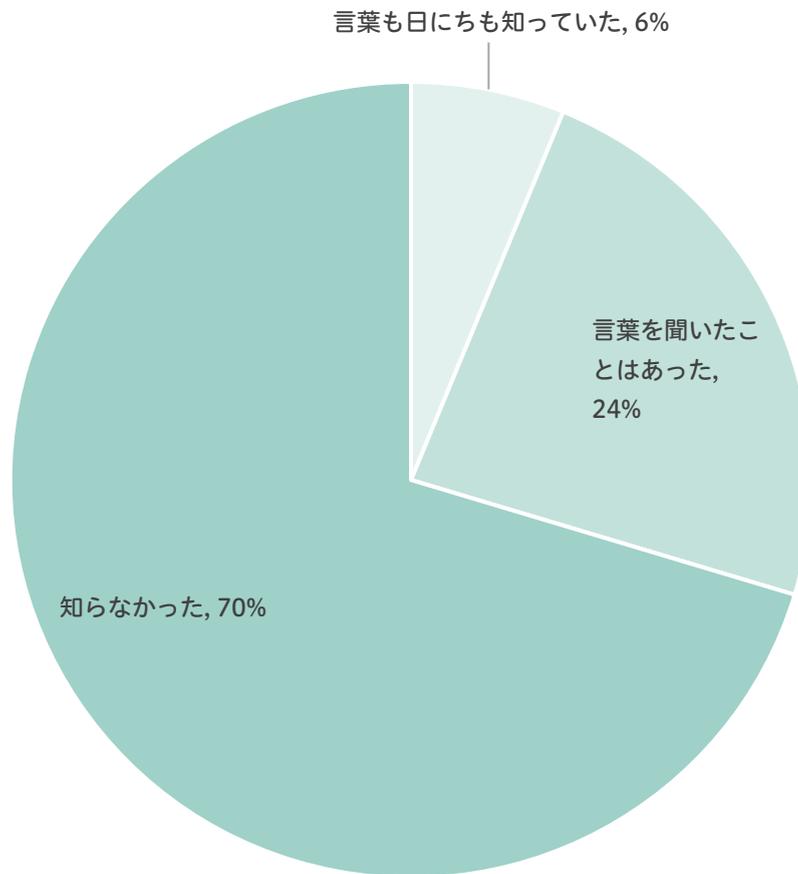
Q7.「地産地消」という言葉の意味を知っていますか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「意味を知っている」(84%)が最も多く、以下、「言葉は聞いたことがある」(12%)、「知らない」(4%)と続いている。

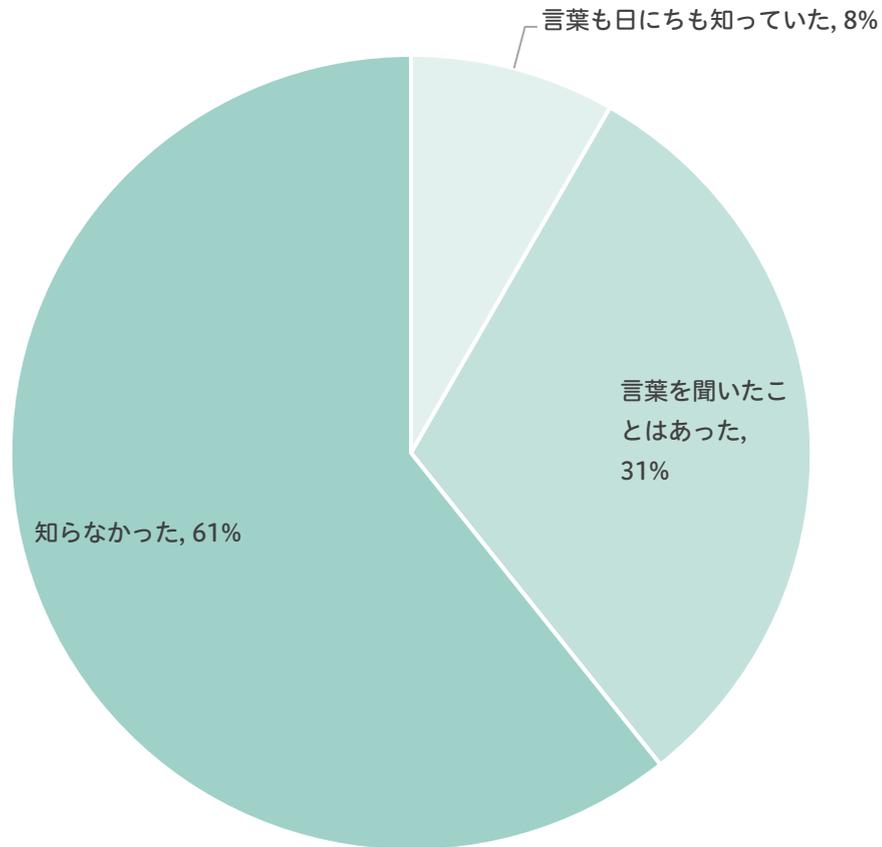
Q8.栃木県は、毎月18日を「とちぎ地産地消の日」としています。そのことを知っていましたか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「知らなかった」(70%)が最も多く、以下、「言葉は聞いたことはあった」(24%)、「言葉も日にちも知っていた」(6%)と続いている。

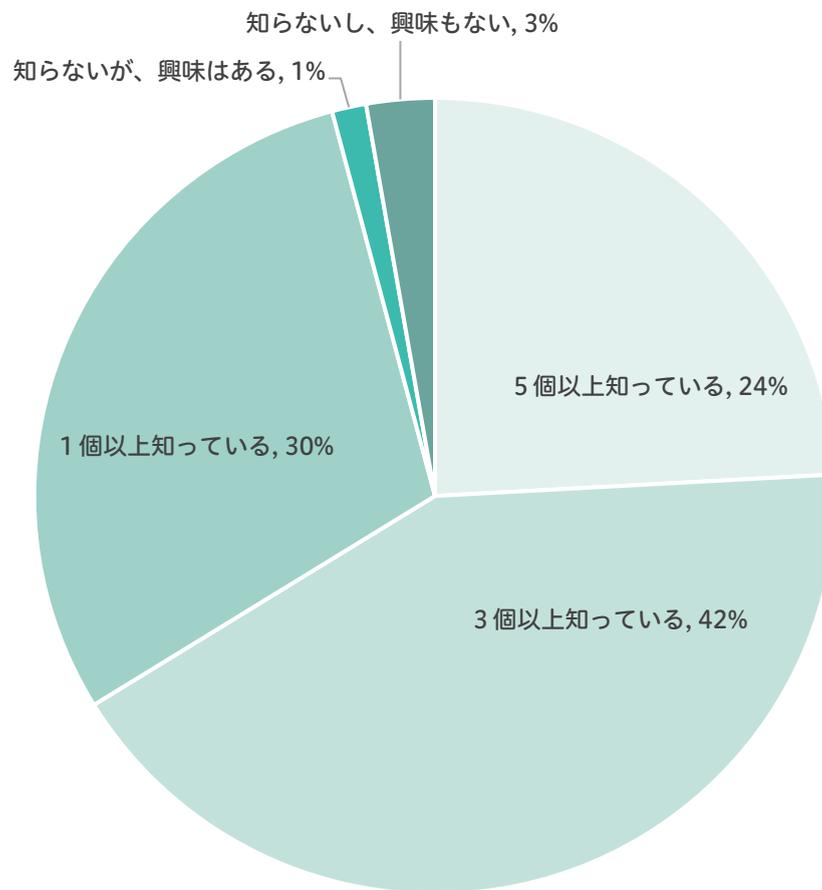
Q9.内閣府は、毎月19日を「食育の日」としています。そのことを知っていましたか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「知らなかった」(61%)が最も多く、以下、「言葉は聞いたことはあった」(31%)、「言葉も日にちも知っていた」(8%)と続いている。

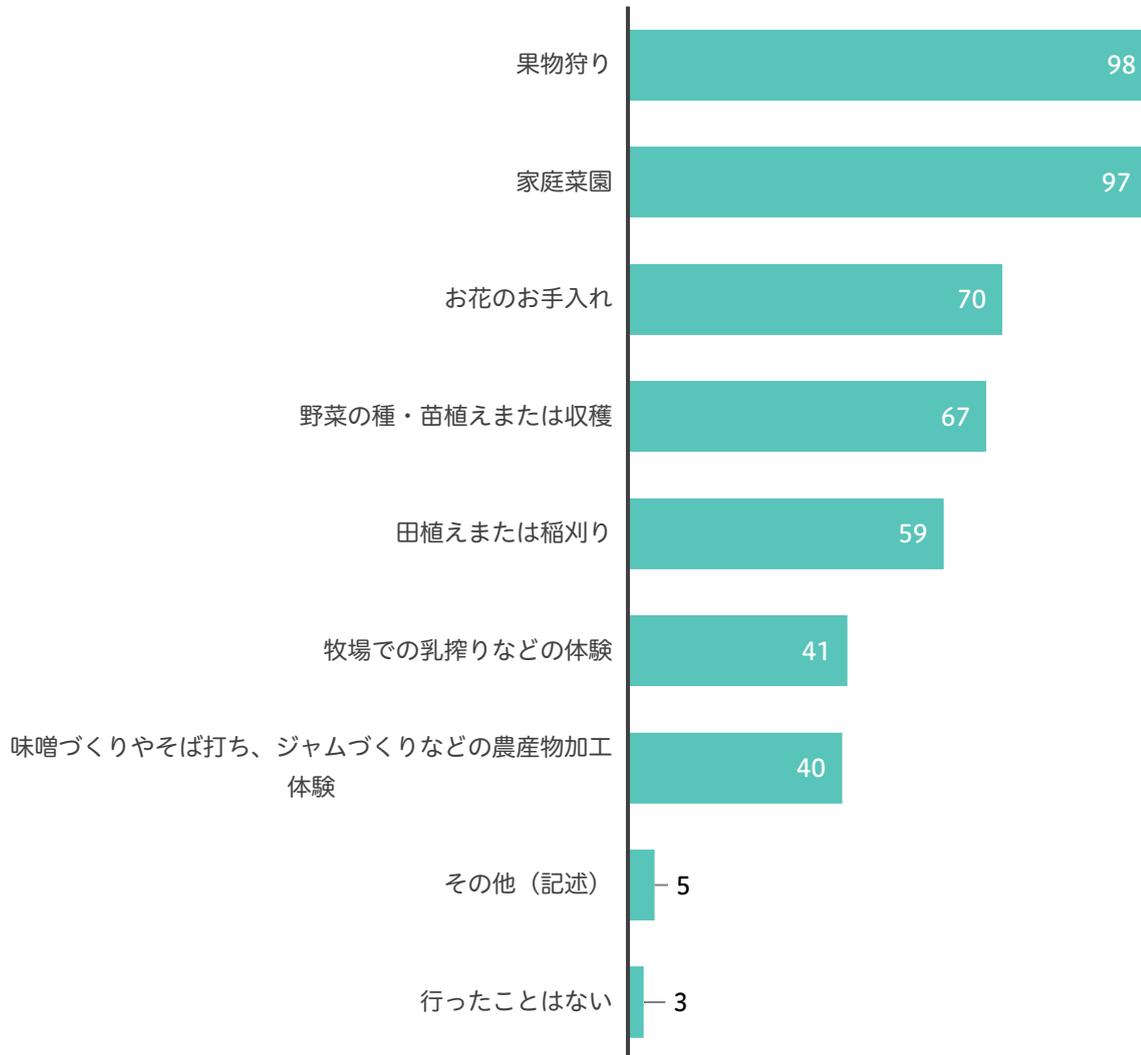
Q10.あなたが住んでいる地域で生産されている、主な農産物をいくつ知っていますか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「3個以上知っている」(42%)が最も多く、以下、「1個以上知っている」(30%)、「5個以上知っている」(24%)などと続いている。

Q11.学校以外で、農業についての体験をしたことがありますか。次のうち行ったことがあるものを選んでください。【いくつでも選んでください】



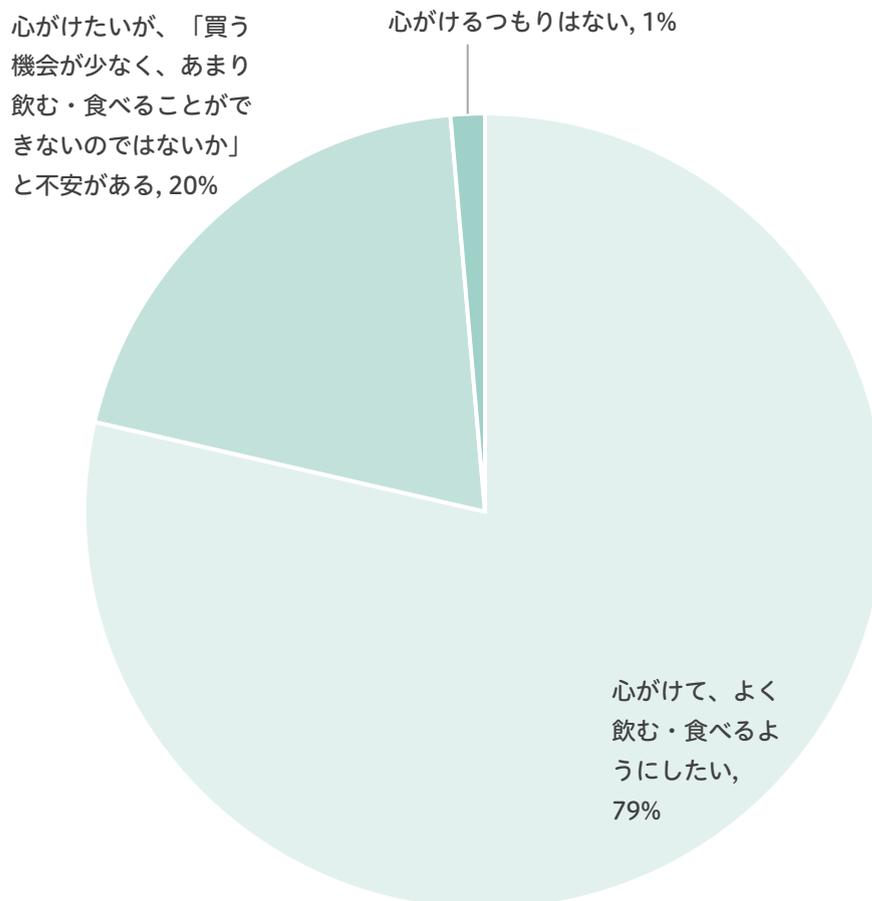
【調査結果の概要】

「果物狩り」(98件)が最も多く、以下、「家庭菜園」(97件)、「お花の手入れ」(70件)などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 干瓢（ふくべ）の皮むき
- ・ バター作り
- ・ たけのこ掘り
- ・ おじいちゃんと収穫体験

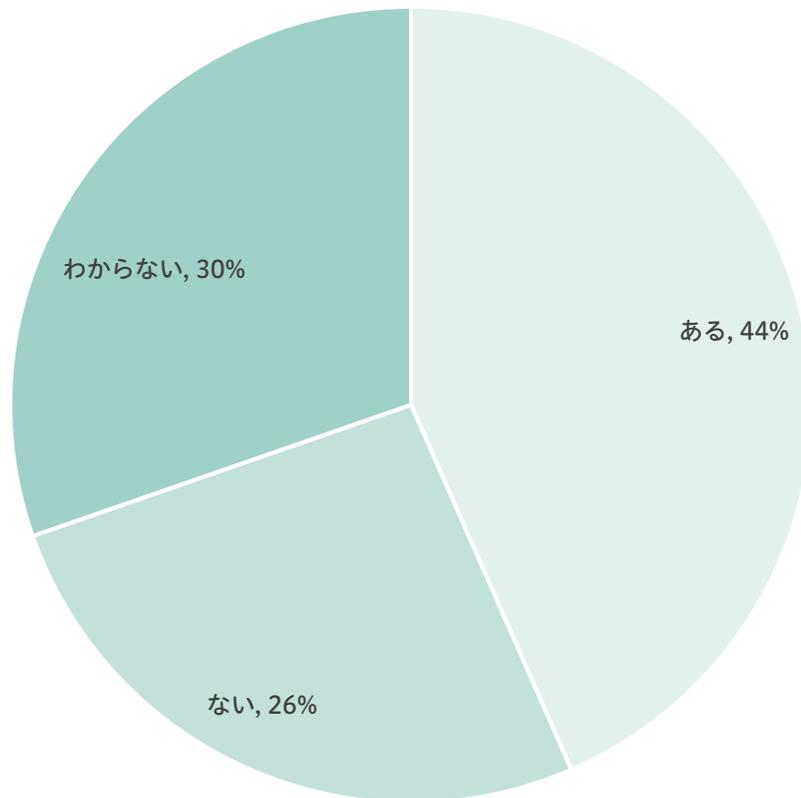
Q12.「日本人は、特に義務教育（小・中学校）を終えた年代から、カルシウムをとる量が足りていない」という調査結果があります。牛乳・乳製品は、カルシウムを効率的にとることのできる食品ですが、あなたは義務教育を終えた後も、牛乳・乳製品を飲む・食べるように心がけたいですか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「心がけて、よく飲む・食べるようにしたい」(79%)が最も多く、以下、「心がけたいが、「買う機会が少なく、あまり飲む・食べるできないのではないかと不安がある」(20%)、「心がけるつもりはない」(1%)と続いている。

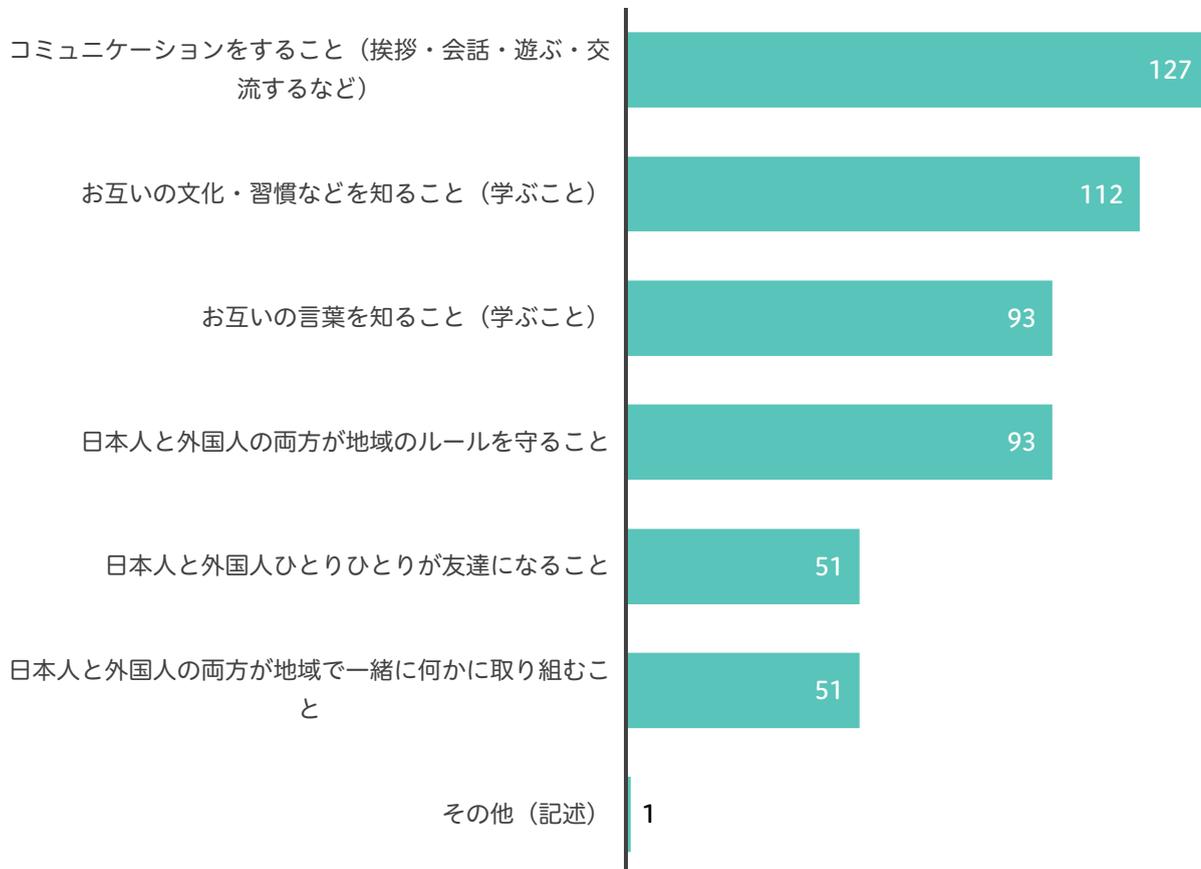
Q13.栃木県では、外国人住民が増えています。外国人住民を理解する上で（あなたが外国人の場合は日本人住民を理解する上で）、難しさを感じる（感じた）ことはありますか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「ある」(44%)が最も多く、以下、「わからない」(30%)、「ない」(26%)と続いている。

Q14.日本人住民と外国人住民が、同じ地域で仲良く・助け合って暮らすために、どのようなことが大切だと思いますか。【いくつでも選んでください】



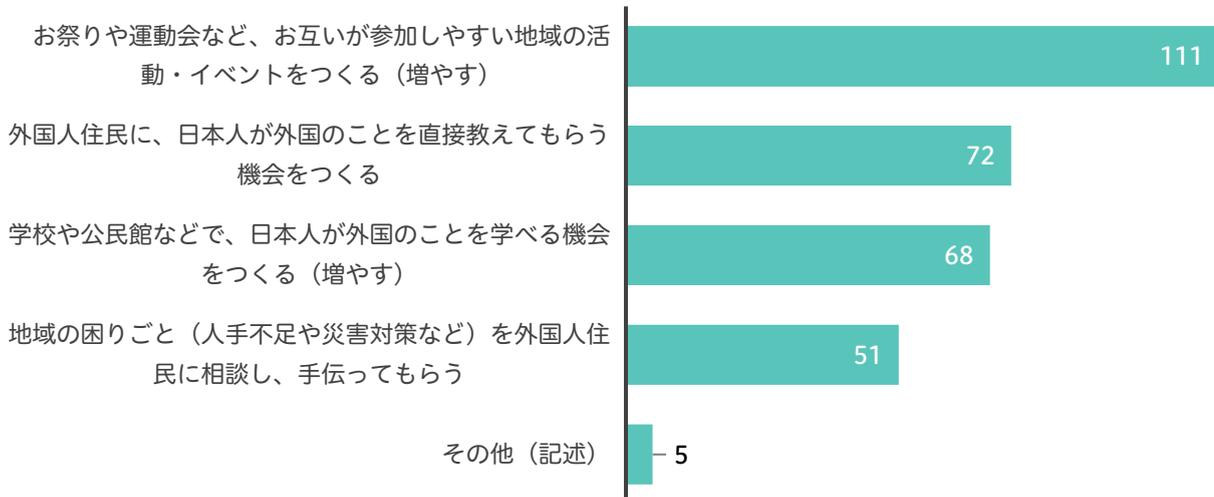
【調査結果の概要】

「コミュニケーションをすること（挨拶・会話・遊ぶ・交流するなど）」（127件）が最も多く、以下、「お互いの文化・習慣などを知ること（学ぶこと）」（112件）、「お互いの言葉を知ること（学ぶこと）」（93件）、「日本人と外国人の両方が地域のルールを守ること」（93件）などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 私がファミマに行った時、あるキャンペーンをしていて、お会計をしようとしていたとき、外国人がバーコードのないものを頑張って探していたのもう少しだけ日本人店員も外国人店員もわからないことや、そのことをさせる事が必要だと感じた。

Q15.日本人住民と外国人住民が、同じ地域で仲良く・助け合って暮らすために、具体的にどのようなことが効果があると思いますか。アイデアを教えてください。【いくつでも選んでください】



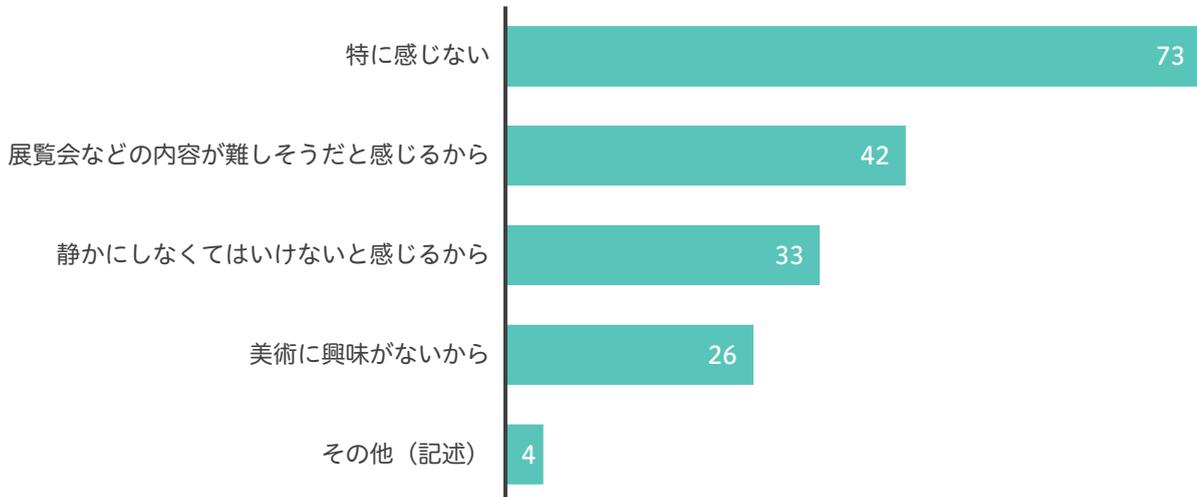
【調査結果の概要】

「お祭りや運動会など、お互いが参加しやすい地域の活動・イベントをつくる（増やす）」(111件)が最も多く、以下、「外国人住民に、日本人が外国のことを直接教えてもらう機会をつくる」(72件)、「学校や公民館などで、日本人が外国のことを学べる機会をつくる（増やす）」(68件)などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 外国人が日本を理解しやすいように、日本の文化、考え方、行事を紹介する
- ・ 日本文化の体験イベントを開く
- ・ 外国人も日本のことを学ぶ機会があると良いと思う。
- ・ 外国の方に、日本社会のルールを教えること。
- ・ 挨拶をする。

Q16.美術館を訪れるときに、心理的なハードルを感じることはありますか。また、感じる場合、どのようなものがハードルとなりますか。【いくつかつでも選んでください】



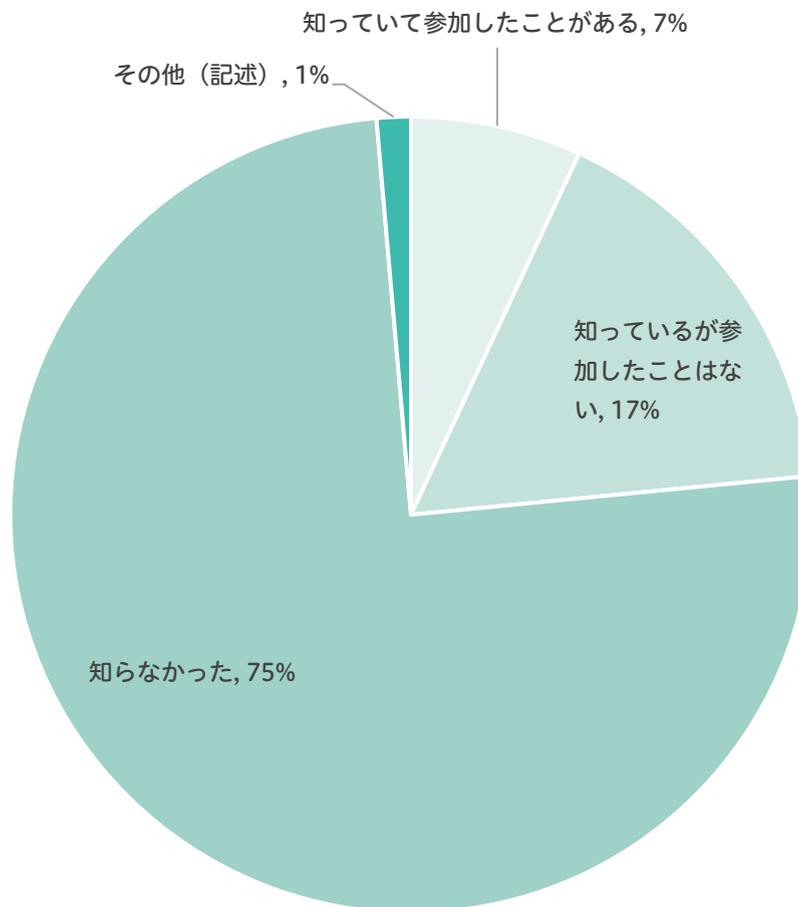
【調査結果の概要】

「特に感じない」(73件)が最も多く、以下、「展覧会などの内容が難しそうだと感じるから」(42件)、「静かにしなくてはいけないと感じるから」(33件)などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 小さい頃いったため覚えていない
- ・ 感想をもとめられるから
- ・ 作家を知らない
- ・ 行ったことがない

Q17.栃木県立美術館で、楽しく制作活動を行うことのできるワークショップ「アトラウンジさくら塾」や、美術館の作品をみんなで鑑賞する様々なイベントなど、様々な世代が参加できるイベントを開催していることを知っていましたか。【ひとつだけ選んでください】



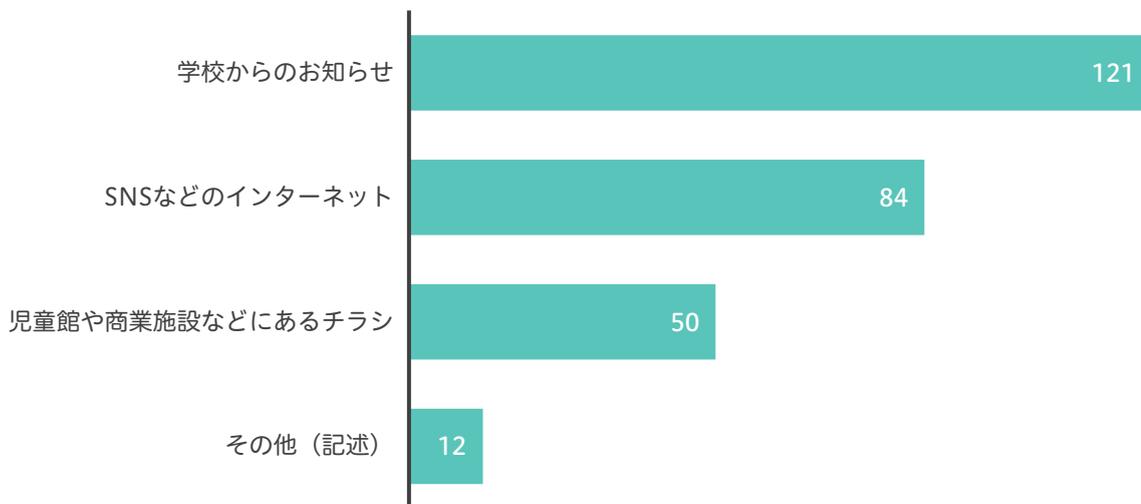
【調査結果の概要】

「知らなかった」(75%)が最も多く、以下、「知っているが参加したことはない」(17%)、「知っていて参加したことがある」(7%)などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ いままで知らなかったがぜひ参加してみたいと思った。
- ・ 覚えていないが参加したことはあった

Q18.参加するイベントなどの情報収集は、どのような媒体で行っていますか。【いくつでも選んでください】



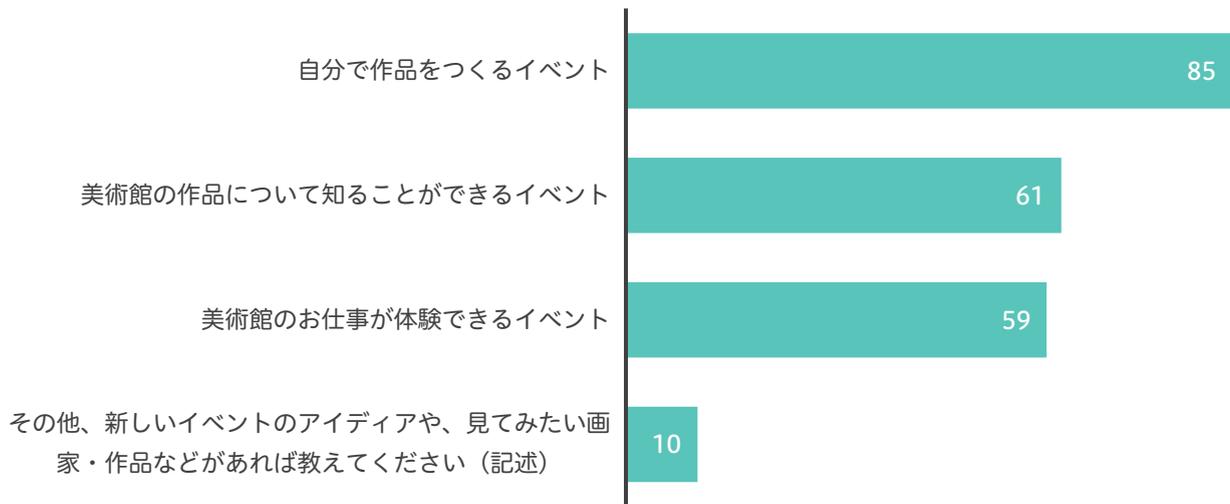
【調査結果の概要】

「学校からのお知らせ」(121件)が最も多く、以下、「SNSなどのインターネット」(84件)、「児童館や商業施設などにあるチラシ」(50件)などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 新聞 ラジオ
- ・ 家にくるチラシやお知らせ
- ・ 市や県の広報
- ・ 新聞やネット、お母さんから聞いたりします
- ・ 回覧板
- ・ 両親からなど 7件

Q19.今後、栃木県立美術館で開催してほしいイベントや企画展などをお聞かせください。【いくつでも選んでください】



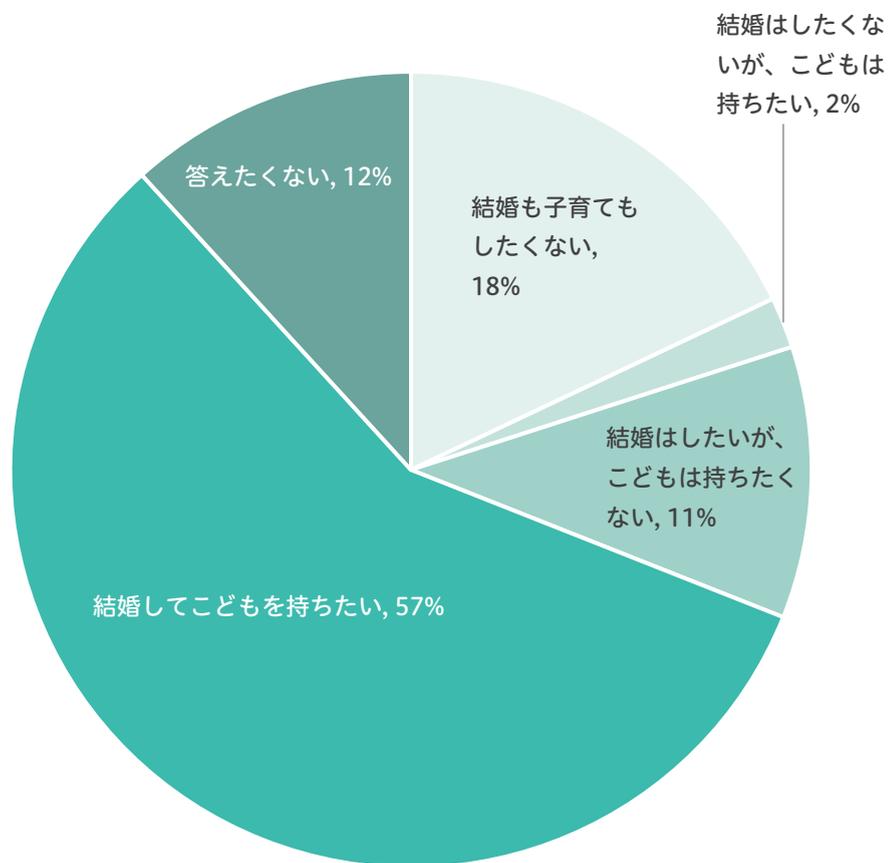
【調査結果の概要】

「自分で作品をつくるイベント」（85件）が最も多く、以下、「美術館の作品について知ることができるイベント」（61件）、「美術館のお仕事が体験できるイベント」（59件）などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 絵が苦手な人のために、絵の描き方を教えてほしいです。
- ・ 話しながらみられる、説明をしてもらえるイベント
- ・ 若い人たちも SNS などを通して知っているような作家や芸術家による作品展
- ・ 美術館に、展示されている作品の作者によるトークイベント。
- ・ ピカソバンクシー
- ・ 企画展などで取り上げた画家や作家についての詳しい解説
- ・ 奈良美智さんやふくざわゆみこさんの原画
- ・ 職員への疑問や質問などや裏の施設を見せてもらう。など

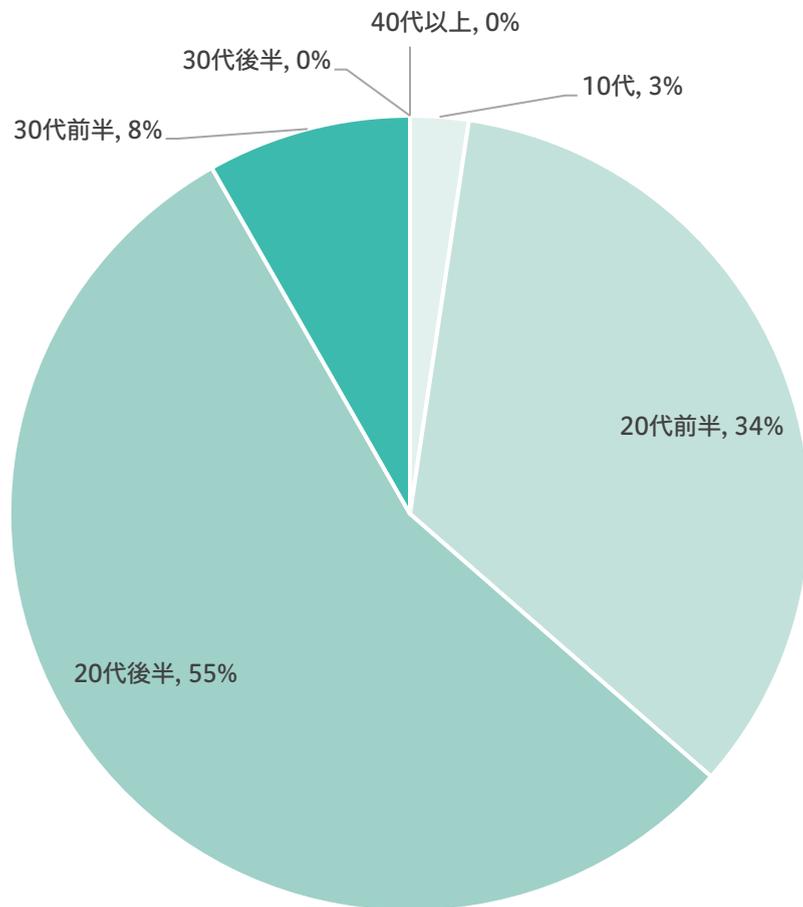
Q20.結婚や子育てに関しては、さまざまな価値観や考え方があります。次のうち、あなたの考えに一番近いものはどれですか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「結婚して子どもを持ちたい」(57%)が最も多く、以下、「結婚も子育てもしたくない」(18%)、「答えたくない」(12%)などと続いている。

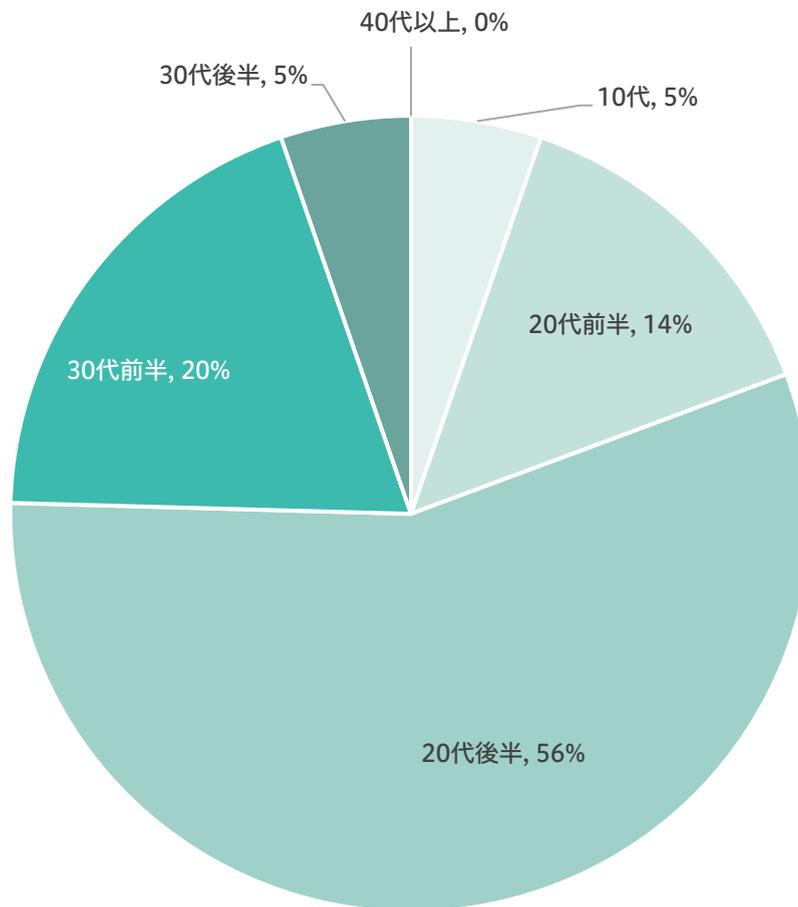
Q21. 「Q20」で「結婚はしたいが、こどもは持ちたくない」「結婚してこどもを持ちたい」を選んだ方にお聞きします。あなたは、何歳頃に結婚したいと考えていますか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「20代後半」(55%)が最も多く、以下、「20代前半」(34%)、「30代前半」(8%)などと続いている。

Q22. 「Q20」で「結婚はしたくないが、こどもは持ちたい」「結婚してこどもを持ちたい」を選んだ方にお聞きします。あなたは、何歳頃にこどもを持ちたいと考えていますか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「20代後半」(56%)が最も多く、以下、「30代前半」(20%)、「20代前半」(14%)などと続いている。